

目 次

日本の制度.....	1
ルーツ探しとは.....	1
ルーツ探しをする前に考えること	1
ルーツ探しの方法	3
仲介人の必要性.....	4
ISSJ での支援	5

ルーツ探しに関心のある養子の方へ

日本の制度

日本も批准している子どもの権利条約には、子どもが「できる限りその父母を知る」権利(第7条)が明記されています。しかし、日本では養子の出自を知る権利は明文化されておらず、支援機関においての対応も様々です。

例えば、児童相談所では養子縁組をあっせんした子どもや実親の記録を永年保存しているところもあれば、保存期間を過ぎたために破棄してしまったところもあります。(児童相談所については平成25年の児童相談所運営指針の改正通知で、養子縁組に至ったケースの資料を長期保存することが定められています)

民間団体においても、記録の保存に関する対応はそれぞれ異なっていて、記録の中身(どんな資料を残しているか)も様々です。ISSJでは、1952年発足当時からの記録を全て残しています。保存されている記録には、当時のソーシャルワーカーと実親の面接記録や、本人や養親・実親の写真、母子手帳などがあります。

ルーツ探しとは

ルーツ探しとは、「自分は誰なのだろう。これからどうしたらいいのだろう。」というような質問を通して、自らのアイデンティティに向き合うプロセスです。自分がどこから来た誰なのかを探る際に、自分の生まれ育った環境だけでなく、両親の生い立ちや祖父母について知ることを望む人もいます。特に養子として迎えられた方の中には、実両親や実きょうだい、実親族のことを知りたいと思う人もいます。ISSJにも、「自分はなぜ養子縁組されたのだろうか」「自分にはきょうだいがいるのだろうか」「生みの親について知りたい」といった養子であるが故の相談が寄せられます。覚えておきたいのは、ルーツ探しには終わりがないということです。養子と実親が再会に至ったケースであっても、再会したから終わりではありません。その後の交流のあり方も含め、ルーツ探しは養子にとっても実親族にとっても一生続くプロセスなのです。

ルーツ探しをする前に考えること

ルーツ探しをする前に是非、考えたいことがあります。まず、どうしてルーツ探しがしたいと思いついたのでしょうか。ルーツ探しで何をしたいか、何を知りたいか考えることも大事

です。実親族と実際に再会したいと思う人もいるでしょうし、自分の養子縁組についてもっと情報を知りたいという人もいるでしょう。自分の出生時の名前を知りたいと望む人もいますし、実親族に感謝の気持ちを伝えたいという人もいます。どうしてルーツ探しをしたいのか、どんな情報を希望し、なぜその情報を求めたいのか、考えてみましょう。

次に、ルーツ探しをする時期について考えてみましょう。ISSJでは原則として、実親族と連絡を取るのには養子が成人年齢に達してからにしています。ISSJに相談を寄せる養子の中には、成人したとき、結婚、出産したとき、また養親が亡くなったときにルーツ探しを始める人がいます。ルーツ探しをしたいとずっと思っていて、都合のいい機会を待っている人もいます。ルーツ探しを始める前に、今があなたにとってどんな時期か、考えてみましょう。例えば、養親を亡くしたばかりであれば、実親族に会い、寂しさを埋めたいという気持ちがわくかもしれません。しかしながらルーツ探しが幸せな結果に終わるとは限りません。そのことを考え、気持ちや生活が不安定なときにルーツ探しをするのは避けたほうが良いでしょう。

ルーツ探しにリスクはつきものです。養子の方とのカウンセリングで実親族について想像してもらいますが、実親族の生活状況は分かりません。連絡が取れる状況にないということも考えられます。例えば、実親族の中には再婚相手に養子のことを伝えていないので今は連絡を取り合いたくない、気持ちの整理がつかない、などと思う人もいます。ルーツ探しを始めるときには、実親族の今の生活状況を踏まえて慎重に進めることが求められます。

養親に関する情報を持ち合わせていなくても、養子縁組団体に聞けば何か分かるかもしれないという期待を抱く養子もいます。養子縁組団体が記録を保存していれば良いのですが、そうでない場合があります。例えば書類が紛失してしまっていて見つからない、火災で資料が焼けてしまった場合などを考えておく必要があります。また、日本国籍の人であれば戸籍をたどれば実親族の名前などは分かりますが、出生時に父母が登録されていないこともあります。出生時の父母の欄が空欄であれば、実親族にはたどり着けません。ただ、この場合も、養子縁組団体では子どもが保護された当時の状況など、なんらかの情報が残っている場合があります。

こうした状況は実親族を探す養子に、更なる喪失感を与えかねません。ただ、こうしたリスク事前に理解することで心の準備をしておくことは大切です。

もう一つ考えたいのが、ルーツ探しが周りの人に与える影響です。養親が亡くなっている場合もありますが、養親に及ぼす影響、実母の現在の夫やきょうだいに与える影響などが考え

られます。特に、養子縁組では家族関係が複雑になり、実親族側のきょうだいと養子縁組された先でのきょうだいへの配慮が必要になることもあります。例えば、実親族側のきょうだいは、急に現れた養子が母（父）を奪い去ってしまうのではないかと不安に思うかもしれません。このような感情は大人にもしばしば生じるものですし、一人っ子だと思っていたのに急にきょうだいが現れ、戸惑うこともあるでしょう。養子縁組先のきょうだい同士に与える影響を考えてみましょう。一人の養子が実親族との再会を果たしたのを機に、もう一人のきょうだいも再会を望んだが会えなかったというケースも多々あります。この場合、養子縁組でせっかく結ばれたきょうだい同士の絆が、ぎくしゃくしてしまうことがあります。

いずれの場合も、ルーツ探しに終わりがいいことを確認することが大切です。ずっと実親族に会いたいと思っていた養子が再会できたとしても、それで終わるわけではありません。実親族と養子との交流はそこから始まり、また再会が徐々に周りの人に与える影響に直面しなくてはなりません。養子や実親族によっては、会った後に違和感が残る場合もありますし、期待はずれに思ってしまうこともあるかもしれません。また、養子と実親族が、ルーツ探しを通じて緊張したりどきどきしたりということはありますが、それがエスカレートして、性的に惹かれあう場合もあります。決して望んだとおりにいくものではなく、また想像しなかったことが起こりえる、ということ覚えておく必要があります。

最後に、ルーツ探しはジェットコースターのようなものであり、終わりも見えず上がったり下がったりという感情の波と上手く付き合っていかなければなりません。そのような場合に必要なのは、あなたの周りで支えてくれる人を見つけることです。養親には言いにくい、という人もいることでしょう。友人や恋人、配偶者など、あなたの気持ちを受け止めてくれ、共に支えてくれる人はいるでしょうか。

ルーツ探しの方法

養子の方がツール探しをしたいと思ったときに、どんな方法でどんなことを調べることができるのでしょうか。養親に知っていることを聞いてみるのは一つの方法です。知る限りの情報を教えてくれる養親もいることでしょう。しかし、養親がほとんど情報を知らないという可能性もあります。そのような場合には、養子縁組前の戸籍謄本や、家庭裁判所から発行された審判書を読むと、実親の名前や実親の生年月日などは分かるでしょう。また、養子縁組団体が発行した調査書なども参考になるでしょう。

審判書から、実親の当時の居住地が分かったとしても、いきなり訪ねていくことはお勧めできません。実親が今もその場所に住んでいるかどうか分かりませんし、実親の今の暮らしについて何の情報もないまま、あなたが訪ねてきたことについて、実親がどう受け止めるか分

からないからです。養子縁組後の実親の離婚、再婚、子どもの誕生など、実親の生活や家族環境が変化している可能性もあります。再婚相手や子どもに養子縁組の事実を伝えていない場合もあります。

養子縁組に関わった児童相談所・団体が分かっている場合、そこに連絡を取るのも一つの方法です。児童相談所や団体によっては既に述べたように、養子縁組当時の記録やその後の実親とのやり取りなどを文書に残しているところがあるでしょう。養子の方にどれだけの情報をどうやって伝えるかは、ケースバイケースですが、やはり実際にスタッフと会って伝えてもらうことが望ましい形です。

ISSJ を通じて養子縁組をされたケースの場合、最初の相談は電話かメールで行います。連絡をしてきた養子の方がどんなことを知りたいのか、どんな情報を既に知っているのかなどを確認します。遠方に住む方との面接は **Skype** で行う場合もありますし、また近くにいらっしゃる機会があれば事務所で面接を行う場合もあります。ISSJ では発足当時から資料を保管していますので、ソーシャルワーカーが当時の資料をもとに養子からの質問に答えます。

もし実親に会いたいと養子が希望すれば、戸籍をたどり実親の現住所を調べ、ソーシャルワーカーが実親に手紙を送ります。そこから再会につながるケースもありますが、実親の受入れ準備に時間がかかり、再会が叶わないケースもあります。

現代では、**Facebook** などの SNS が発達しており、それらを使って実親族を探したいと思う人もいるかもしれません。しかし、SNS を通じて直接連絡を取る方法はお勧めできません。これらの方法では、実親族の心の準備ができていないかどうか、判断ができないからです。直接 SNS を通じて連絡を取るより、ソーシャルワーカーなどの第三者に介入してもらい、手紙を送る方法をお勧めします。手紙は時間がかかりますが、実親族に十分な対応時間を与えることができるという利点があります。

仲介人の必要性

ルーツ探しを行うときには、ソーシャルワーカーなどの第三者の支援を受けることが望ましいです。知人や友人ではなく、できれば養子と実親族の状況を両方理解できる立場にある、ソーシャルワーカーに依頼するのが良いでしょう。ルーツ探しには細心の注意を払う必要があるため、双方の状況を考慮できる専門家に任せるのが安心です。

実際のルーツ探しの現場では、始めの段階で仲介人がすべきことがたくさんあります。例え

ば、養子へのカウンセリングや実親族へのカウンセリングです。再会や、それに伴う連絡は双方にとって、その後の人生を変える重大なライフイベントです。事前にリスクや注意点について仲介人と話すことで、養子の側も実親族の側も心の準備ができます。

ISSJ での支援

ISSJ では養子ご本人からメールや電話でのご相談を受け付けています。ISSJ にある養子縁組の過去の記録や情報を知りたいというご相談の場合は、ご本人であるかどうかの確認を取らせていただいた上で、必要な情報を開示しています。

希望されるルーツ探しの内容は各々によって異なるため、支援の方法も様々です。ご相談の内容を伺った上で、ソーシャルワーカーとのカウンセリングを始めます。カウンセリングでは、ルーツ探しをどこから始めたらよいか分からない、実親は自分のことをどう思っているのだろうか、またルーツ探しをすることで養親との関係が壊れてしまうのが怖い、などといった質問が多くあります。

ISSJ では、実親の本籍地が分かれば、戸籍をたどり今の住所を調べることができます。実親の戸籍を見ると、実親族が存命か、結婚しているか、他に子どもいるかなどがわかります。その情報だけで満足する方もいますし、実際に手紙のやりとりをしたい、会ってみたいという方もいます。その場合、ISSJ のソーシャルワーカーが実親に手紙を書き、養子からのメッセージを伝えています。養子と実親の間に言語の壁がある場合には、手紙の翻訳も行っています。実際に再会したいという場合にも、まずは実親へ手紙でご連絡しています。その後、実親へのカウンセリングも行います。再会の立合いや再会場面での通訳、また再会後の支援にも力を入れています。

なお、ISSJ では仲介人の必要性を理解し、ISSJ 以外の養子縁組でもルーツ探しのご相談に応じています。お問い合わせください。